


 作文部門  
 受賞者  
 Award Winner

(一社) 静岡県動物保護協会 会長賞

## ぼくとすごすごす犬たち

三年 石井柊有

ぼくの家には、ぼくが生まれた時から犬がいました。ポメラニアンのプリンとしば犬のコウメです。ぼくが歩けるようになったころから、おさん歩に行ったり、いっしょにすわってテレビを見たり、ボールであそんだりして、毎日いっしょにすごしてきました。

しかし、プリンはおぼくがほいくえんの時に、とつぜん死んでしまいました。もうおじいちゃんでしたが、元気でぼくとあそんでいました。よくかみついてきて、何回もなかされたことは今でもおぼえています。プリンが死んでしまった日、とてもかなしかったけれど、ひこうきがそらにニコちゃんマークをかいてくれました。ぼくもえ顔でがんばろうと思いました。ぼくは今でも空で一番ひかっている星を見て、プリンを思い出しています。

プリンがいなくなつてから、またポメラニアンがお家に来てくれました。その子の名前をきめるときに、空を見ていたので、ソラという名前になりました。ソラは、家ぞくが大すきですが、外ではすぐくびりで、コウメがいっしょじゃないとさん歩も行きません。ソラは、家ぞくの中でぼくのことを、あまりすきではありません。小学生になり、相手をしなかったことをはんせいし、すきになつてもらえるようにがんばっています。

コウメは、小さい時からぼくの近くで見守ってくれています。ぼくが小さいころは、いっしょにたくさんあそびましたが、もうおばあちゃんです。後ろ足が弱くなり、立つのを手つたうこともふえませんでした。さん歩もすぐ帰ります。なにかしてほしい時は、ほえておしえてくれるので、家ぞくみんなですपोर्टしてあげます。

これからも、プリンのことをわすれず、コウメとの時間を大切に。そして、ソラにすきになつてもらえるように楽しくすごします。